

第11次静岡県職業能力開発計画の進捗状況について

中柱	令和4年度				施策の方向性 ・ 令和5年度取組																					
	取組		主な取組の評価・課題																							
(1) 社会の変化に対応できる能力の習得	<p>【高度で幅広い専門的な知識・技能を持つ実践技術者を育成】</p> <p>・高校訪問、進路担当者説明会、オープンキャンパスや高校の個別見学会、進路ガイダンスへの参加など応募者増加に向けた広報を実施している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>管理指標</th> <th>11次目標</th> <th>策定時</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工科短期大学校・浜松技術専門学校卒業生の就職率</td> <td>100%</td> <td>98.6%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>工科短期大学校・浜松技術専門学校学生の技能検定2級合格率</td> <td>80%以上</td> <td>80.6%</td> <td>79.2%</td> </tr> <tr> <td>工科短期大学校の定員充足率</td> <td>100%</td> <td>92.3%</td> <td>90.8%</td> </tr> <tr> <td>工科短期大学校の志願者数</td> <td>195人</td> <td>162人</td> <td>155人</td> </tr> </tbody> </table>				管理指標	11次目標	策定時	R4実績	工科短期大学校・浜松技術専門学校卒業生の就職率	100%	98.6%	100%	工科短期大学校・浜松技術専門学校学生の技能検定2級合格率	80%以上	80.6%	79.2%	工科短期大学校の定員充足率	100%	92.3%	90.8%	工科短期大学校の志願者数	195人	162人	155人	<p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度工科短期大学校・浜松技術専門学校卒業生の就職希望者に対する就職率は100%（うち県内企業への就職率94.4%）であった。また、工科短期大学校卒業生2人が職業能力開発大学校に編入した。 令和4年度工科短期大学校入学者は118人と定員充足率90.8%となった。（令和3年度は120人、定員充足率92.3%） 工科短期大学校の志願者数は、令和4年度生が155人（令和3年度生が162人）と、各年度の目標値には達していないが、沼津・清水技術専門学校（令和2年度生、志願者数89人）に比べて66人増加（1.74倍）した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 少子化が進展する中での志願者・入学者の確保 <p>学校基本調査では、静岡県内高校全日制3年生在学者数は、令和3年度29,834人、令和4年度29,227人、令和5年度は27,846人と2年間で1,988人減少している。</p> <p>・進路選択時期が早期化（オープンキャンパス参加者のうち高校1・2年生の参加者の割合は、令和3年度23%、令和4年度30%）しており、志願者数増加を目指すのに高校1・2年生に向けた広報強化が必要である。</p>	<p><施策の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> グローバル化や科学技術の進展による大きな変化に対応できる人材を育成するため、清水技術専門学校と沼津技術専門校の教育内容を高度化し、令和3年4月に静岡県立工科短期大学校（静岡キャンパス・沼津キャンパス）を開校した。 生産現場のリーダーとなる人材を育成するため、時代に合わせて高度化した教育・訓練を実施している。 <p><具体的な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパスを5月から翌年3月まで、各キャンパス8回開催し、各科の体験授業を受講できるようにするとともに、高校1・2年生の参加も推奨する。 県内高校の個別見学会を開催し、工科短期大学校の高校生への周知を図る。 大学フェアに参加し、受験生やその保護者への周知を図る。 高大連携職員（工業高校校長OB）の配置による、高校と連携した効果的な広報の実施 受験生の保護者をターゲットとしたWeb広告を実施する。
	管理指標	11次目標	策定時	R4実績																						
	工科短期大学校・浜松技術専門学校卒業生の就職率	100%	98.6%	100%																						
工科短期大学校・浜松技術専門学校学生の技能検定2級合格率	80%以上	80.6%	79.2%																							
工科短期大学校の定員充足率	100%	92.3%	90.8%																							
工科短期大学校の志願者数	195人	162人	155人																							
<p>【デジタル化に対応する技術を持つ人材の育成】</p> <p>・デジタル化に対応できる人材を育成するため、工科短期大学校等で、デジタル技術や成長産業分野に対応した在職者訓練（3DCAD/CAM/CAE、5軸等のマシニングセンタ、IoT、ロボット、シーケンス制御など）を実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>管理指標</th> <th>11次目標</th> <th>策定時</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>在職者訓練におけるデジタル化等関連分野訓練受講者数の割合</td> <td>50%</td> <td>15.6%</td> <td>19.7%</td> </tr> <tr> <td>デジタル分野に係る在職者訓練受講企業の満足度</td> <td>80%以上</td> <td>95.0%</td> <td>87.2%</td> </tr> </tbody> </table>				管理指標	11次目標	策定時	R4実績	在職者訓練におけるデジタル化等関連分野訓練受講者数の割合	50%	15.6%	19.7%	デジタル分野に係る在職者訓練受講企業の満足度	80%以上	95.0%	87.2%	<p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度から、デジタル化等関連分野の在職者訓練を拡充し、「デジタル化等関連分野訓練受講者数の割合」は、令和3年度の16.9%から令和4年度19.7%と、令和4年度の期待値27.1%を下回ったが、増加傾向にある。 デジタル分野に係る在職者訓練受講企業の満足度は87.2%となり、目標値を上回った。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 企業ニーズに応じて、非デジタル化訓練の見直しやデジタル化訓練の新規設定を継続していく必要がある。 企業や在職者に対して、スキルアップ機会の提供を図るとともに、効果的な広報を行っていく必要がある。 	<p><施策の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> 生産性向上のために、製造・建設現場で使用される最新のデジタル技術（ICTやIoT、AI、ロボットなど製造現場で使われる新技術）を活用するための在職者訓練の実施を拡充する。 <p><具体的な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 毎年、デジタル化等関連分野の在職者訓練の開催コース数を増加させる。 ただし、基礎的な技能や現場管理に必要な技術習得、さらに業務実施上必要な資格取得（労働安全衛生法に基づく講習など）など、生産現場・建設現場で必要なスキルアップのコースは継続して実施する。 									
管理指標	11次目標	策定時	R4実績																							
在職者訓練におけるデジタル化等関連分野訓練受講者数の割合	50%	15.6%	19.7%																							
デジタル分野に係る在職者訓練受講企業の満足度	80%以上	95.0%	87.2%																							
<p>【企業と連携した職業訓練の実施】</p> <p>・民間と県による職業訓練協定「ものづくり人材育成協定」を締結した企業等と連携し、企業現場の高度な技術を持つ技術者が講師を務め、現場の先端機器を活用した在職者訓練を実施した。</p> <p>・リーディング産業を創出・育成するファルマバレー、フーズ・ヘルスケア、フォトン、次世代自動車、CNF、MaOI、AOIなどの各プロジェクトや取組により中核人材を育成した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>管理指標</th> <th>11次目標</th> <th>策定時</th> <th>R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企業と連携して実施する職業訓練件数</td> <td>11件</td> <td>8件</td> <td>13件</td> </tr> <tr> <td>先端産業創出プロジェクト等における中核人材育成数</td> <td>毎年度626人</td> <td>—</td> <td>1,026人</td> </tr> </tbody> </table>				管理指標	11次目標	策定時	R4実績	企業と連携して実施する職業訓練件数	11件	8件	13件	先端産業創出プロジェクト等における中核人材育成数	毎年度626人	—	1,026人	<p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 企業と連携して実施する職業訓練件数は13件と策定時の8件を上回った。 <p>訓練内容：射出成形機、産業用ロボット操作、レーザー加工、プレスなどに関するコース</p> <ul style="list-style-type: none"> 先端産業創出プロジェクト等における中核人材育成数は、目標値626人に対し、1,026人と大幅に上回った。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 連携して在職者訓練を実施する企業や「ものづくり人材育成協定」締結企業を新たに開拓していく必要がある。 リーディング産業の育成には、中核支援機関を中心に、開発を担う人材の育成を支援していく必要がある。 	<p><施策の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> 工科短期大学校等の施設では保有していない機器に対する訓練ニーズも把握し、保有している企業と連携の可能性について調整し、在職者のスキルアップを推進する。 産学官連携による地域企業の人材育成を促進する。 <p><具体的な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 静岡県信用金庫協会と締結した「静岡県企業人材育成連携協定」による信金ネットワークを活用し、職業訓練ニーズの把握や連携して在職者訓練を推進する企業の発掘をすすめる。 協定の締結に先立ち、IT人材の育成、デジタル化等の新規コースで連携できる企業を増やす。 富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム、健康イノベーション教育プログラム及びレーザーによるものづくり中核人材育成講座等の開催を支援する。 									
管理指標	11次目標	策定時	R4実績																							
企業と連携して実施する職業訓練件数	11件	8件	13件																							
先端産業創出プロジェクト等における中核人材育成数	毎年度626人	—	1,026人																							

第 11 次静岡県職業能力開発計画の進捗状況について

中柱	令和 4 年度			施策の方向性 ・ 令和 5 年度取組												
	取 組	主な取組の評価・課題														
(2) 現場主義に徹した人材育成	<p>【児童や生徒が、企業、技能者等から学ぶ機会の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学校等で技能士の指導のもとでひとつのものを作り上げる体験教室「WAZA チャレンジ教室」を実施した。 小中高校で静岡県技能マイスターが職業観やものづくりの素晴らしさを語る出前講座を実施した。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">管理指標</th> <th style="width: 15%;">11 次目標</th> <th style="width: 15%;">策定時</th> <th style="width: 15%;">R 4 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>WAZA チャレンジ教室参加者数</td> <td>毎年度 2,400 人</td> <td>1,926 人</td> <td>2,182 人</td> </tr> <tr> <td>職場見学や職場体験、社会人講話等の活動を実施した高等学校の割合</td> <td>100%</td> <td>81.4%</td> <td>99.1%</td> </tr> </tbody> </table>	管理指標	11 次目標	策定時	R 4 実績	WAZA チャレンジ教室参加者数	毎年度 2,400 人	1,926 人	2,182 人	職場見学や職場体験、社会人講話等の活動を実施した高等学校の割合	100%	81.4%	99.1%	<p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 「WAZA チャレンジ教室」は令和 2 年度実績が 1,926 人に対して令和 4 年度実績が 2,182 人と増加傾向にあり、「ものづくり」に触れる機会を提供できている。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和 2 年度はキャリア教育においても学校外との連携が縮小され 81.4% の実績となっていたが、勤労観・職業観の醸成の主な取組でもあるインターンシップの実施率も回復傾向にあるなど、キャリア教育に関する外部との連携が再開され、令和 4 年度は 99.1% の実施率まで回復した。また、外部連携を重視した、各高校における探求的な学習の拡大も影響している。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も子どもたちに「ものづくり」に触れる機会を広く提供していくため、「WAZA チャレンジ教室」の実施場所を拡大していく必要がある。 AI・IoT 等のデジタル技術の進展や企業における DX の加速等により、産業構造は急速に変化しており、広汎な職業能力の開発という観点からは、デジタル分野に対応したメニューの実施を検討する必要がある。 今後は、「普通高校（進学校）におけるキャリア教育の充実」、「希望する職種の仕事等確保」、「指導時間、指導者の確保」、「インターンシップの事前・事後指導の充実」が課題として挙げられる。産業界と連携し、各高等学校において生徒のニーズに合わせた取組を進めていく。また、オンラインでの実施や大規模な感染症拡大等を想定した「新しい生活様式」を実践した実施方法等も検討していく必要がある。 		<p><施策の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> 優れた技能者の指導を受けながら「ものづくり」に触れる体験を通じ、ものづくりの楽しさや喜びを伝える。 産業構造の急速な変化を踏まえ、電子工作やプログラミング等の情報処理技術を体験する機会を設ける。 児童や生徒が、学校の授業だけでなく、職場を見学したり、インターンシップに参加したりするなど、実際に企業等を見て、体験することにより勤労観や職業観を養う。 <p><具体的な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 民間企業や公共施設との連携を進め、「WAZA チャレンジ教室」の学校外での実施を拡大して事業の裾野を広げていく。 情報処理技術を体験するための「デジチャレンジ教室」を新設し、学校やイベント会場等で、電子工作キットやプログラミングカーリング等を教材とした体験教室を実施する。 教員の県内企業の魅力・実力への理解を深めるため、教員企業研究会を関係部局と連携して開催する。 企業等へ、インターンシップに対する事業理解を求め、受け入れ企業等の安定した確保とアフターコロナにおけるインターンシップの促進を行う。
	管理指標	11 次目標	策定時	R 4 実績												
	WAZA チャレンジ教室参加者数	毎年度 2,400 人	1,926 人	2,182 人												
職場見学や職場体験、社会人講話等の活動を実施した高等学校の割合	100%	81.4%	99.1%													
<p>【学生等が就職する企業の姿を知る機会の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工科短期大学の学生の就職活動に役立てるため、関連分野の企業でインターンシップを実施した。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">管理指標</th> <th style="width: 15%;">11 次目標</th> <th style="width: 15%;">策定時</th> <th style="width: 15%;">R 4 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工科短期大学学生のインターンシップ実施率</td> <td>100%</td> <td>—</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	管理指標	11 次目標	策定時	R 4 実績	工科短期大学学生のインターンシップ実施率	100%	—	100%	<p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 工科短期大学の 1 年次後期のカリキュラムに組み込まれており、実施状況は 100%。 		<p><施策の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> 工科短期大学の学生が、企業の現場を見て触れて、自身の技術・技能を活かすイメージが持てるようにインターンシップへの参加を促す。 <p><具体的な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 工科短期大学の学生が製造業等関連分野の企業のインターンシップに参加し、工場などの現場で働く方から直接話を聞き、作業を体験するなどして、就職先の企業を知る機会を設定する。 					
管理指標	11 次目標	策定時	R 4 実績													
工科短期大学学生のインターンシップ実施率	100%	—	100%													
<p>【在職者が現場を通して先端技術を学ぶ機会の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> 民間と県による職業訓練協定「ものづくり人材育成協定」を締結した企業等と連携し、企業現場の高度な技術を持つ技術者が講師を務め、現場の先端機器を活用した在職者訓練を実施した。（再掲） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">管理指標</th> <th style="width: 15%;">11 次目標</th> <th style="width: 15%;">策定時</th> <th style="width: 15%;">R 4 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>企業と連携して実施する職業訓練件数</td> <td>11 件</td> <td>8 件</td> <td>13 件</td> </tr> </tbody> </table>	管理指標	11 次目標	策定時	R 4 実績	企業と連携して実施する職業訓練件数	11 件	8 件	13 件	<p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> 企業と連携して実施する職業訓練件数は 13 件と策定時の 8 件を上回った。訓練内容：射出成形機、産業用ロボット操作、レーザー加工、プレスなどに関するコース（再掲） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 連携して在職者訓練を実施する企業や「ものづくり人材育成協定」締結企業を新たに開拓していく必要がある。（再掲） 		<p><施策の方向性></p> <ul style="list-style-type: none"> 工科短期大学等の施設では保有していない機器に対する訓練ニーズも把握し、保有している企業と連携の可能性について調整し、在職者のスキルアップを推進する。（再掲） <p><具体的な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 静岡県信用金庫協会と締結した「静岡県企業人材育成連携協定」による信金ネットワークを活用し、職業訓練ニーズの把握や連携して在職者訓練を推進する企業の開拓をすすめる。（再掲） 協定の締結に先立ち、IT 人材の育成、デジタル化等の新規コースで連携できる企業を増やす。（再掲） 					
管理指標	11 次目標	策定時	R 4 実績													
企業と連携して実施する職業訓練件数	11 件	8 件	13 件													

第 11 次静岡県職業能力開発計画の進捗状況について

中柱	令和4年度				施策の方向性 ・ 令和5年度取組																																																																													
	取 組		主な取組の評価・課題																																																																															
(3) 技術・技能を尊重する社会の実現	【ものづくり体験機会の提供】 ・小中学校等で技能士の指導のもとでひとつのものを作り上げる体験教室「WAZA チャレンジ教室」を実施した。(再掲)				＜評価＞ ・「WAZA チャレンジ教室」は令和2年度実績が1,926人に対して令和4年度実績が2,182人と増加傾向にあり、「ものづくり」に触れる機会を提供できている。(再掲) ＜課題＞ ・今後も子どもたちに「ものづくり」に触れる機会を広く提供していくため、「WAZA チャレンジ教室」の実施場所を拡大していく必要がある。(再掲) ・A I・I o T等のデジタル技術の進展や企業におけるDXの加速等により、産業構造は急速に変化しており、広汎な職業能力の開発という観点からは、デジタル分野に対応したメニューの実施を検討する必要がある。(再掲)																																																																													
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">管理指標</th> <th style="width: 15%;">11次目標</th> <th style="width: 15%;">策定時</th> <th style="width: 15%;">R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>WAZA チャレンジ教室参加者数</td> <td>毎年度 2,400人</td> <td>1,926人</td> <td>2,182人</td> </tr> </tbody> </table>	管理指標	11次目標	策定時		R4実績	WAZA チャレンジ教室参加者数	毎年度 2,400人	1,926人	2,182人		＜施策の方向性＞ ・優れた技能者の指導を受けながら「ものづくり」に触れる体験を通じ、ものづくりの楽しさや喜びを伝える。(再掲) ・産業構造の急速な変化を踏まえ、電子工作やプログラミング等の情報処理技術を体験する機会を設ける。(再掲) ＜具体的な取組＞ ・民間企業や公共施設との連携を進め、「WAZA チャレンジ教室」の学校外での実施を拡大して事業の裾野を広げていく。(再掲) ・情報処理技術を体験するための「デジチャレンジ教室」を新設し、学校やイベント会場等で、電子工作キットやプログラミングカーリング等を教材とした体験教室を実施する。(再掲)																																																																						
管理指標	11次目標	策定時	R4実績																																																																															
WAZA チャレンジ教室参加者数	毎年度 2,400人	1,926人	2,182人																																																																															
(3) 技術・技能を尊重する社会の実現	【技能レベル・社会的評価の向上】 ・若年技能者の地区大会及び全国大会の県予選を開催するとともに、上記大会での入賞を目指して練習する選手の所属企業、団体等に経費を助成した。 ・上位技能者を対象とする技能グランプリの出場選手について、入賞に向けた練習経費を助成した。 ・優れた技術を有し、後進の指導・育成に尽力する現役の技能者を「静岡県優秀技能者」として表彰するとともに、ホームページで紹介するなど受賞者の周知に努めた。また、市町や報道機関への情報提供、経済団体の会報への掲載等の広報を行い、優秀技能者の推薦の掘り起こしを推進した。 ・企業が有する独自の技術やノウハウ等の習得に係る社内検定について、県の「静岡県技能評価認定制度」で認定することにより、労働者の技能習得意欲を増進した。				＜評価＞ ・技能五輪全国大会の入賞者は横ばいで推移している。令和4年度は冷凍空調技術職種で金、フライス盤職種及び冷凍空調技術職種で銀、メカトロニクス職種等で銅4の計7人がメダルを獲得し、敢闘賞の8人を加えた15人が入賞を果たした。 ・若年者ものづくり競技大会入賞者数は横ばいで推移しており、出場者の裾野拡大とスキルアップを図っていく必要がある。 ・優秀技能者表彰者数は、令和2年度実績が23人に対して令和4年度実績が18人と減少している。 [技能競技大会全国大会出場選手数及び優秀技能者表彰者数]																																																																													
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">管理指標</th> <th style="width: 15%;">11次目標</th> <th style="width: 15%;">策定時</th> <th style="width: 15%;">R4実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>技能五輪全国大会入賞者数</td> <td>15人以上</td> <td>13人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>若年者ものづくり競技大会入賞者数</td> <td>6人</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>優秀技能者表彰</td> <td>30人以上</td> <td>23人</td> <td>18人</td> </tr> </tbody> </table>	管理指標	11次目標	策定時		R4実績	技能五輪全国大会入賞者数	15人以上	13人	15人	若年者ものづくり競技大会入賞者数	6人	4人	4人	優秀技能者表彰	30人以上	23人	18人	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">区分/年度</th> <th style="width: 5%;">H30</th> <th style="width: 5%;">R元</th> <th style="width: 5%;">R2</th> <th style="width: 5%;">R3</th> <th style="width: 5%;">R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">技能五輪全国大会</td> <td>選手数</td> <td>33人</td> <td>45人</td> <td>31人</td> <td>43人</td> <td>35人</td> </tr> <tr> <td>入賞数</td> <td>13人</td> <td>16人</td> <td>13人</td> <td>15人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">若年者ものづくり競技大会</td> <td>選手数</td> <td>20人</td> <td>17人</td> <td>中止</td> <td>12人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>入賞数</td> <td>3人</td> <td>3人</td> <td>※1</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">アビリンピック全国大会</td> <td>選手数</td> <td>14人</td> <td>13人</td> <td>11人</td> <td>13人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>入賞数</td> <td>2人</td> <td>4人</td> <td>3人</td> <td>3人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">技能グランプリ(隔年開催)</td> <td>選手数</td> <td>18人</td> <td>-</td> <td>15人</td> <td>-</td> <td>-※2</td> </tr> <tr> <td>入賞数</td> <td>6人</td> <td>-</td> <td>3人</td> <td>-</td> <td>-※2</td> </tr> <tr> <td>優秀技能者表彰</td> <td>26人</td> <td>21人</td> <td>23人</td> <td>22人</td> <td>18人</td> </tr> </tbody> </table>	区分/年度	H30	R元	R2	R3	R4	技能五輪全国大会	選手数	33人	45人	31人	43人	35人	入賞数	13人	16人	13人	15人	15人	若年者ものづくり競技大会	選手数	20人	17人	中止	12人	17人	入賞数	3人	3人	※1	4人	4人	アビリンピック全国大会	選手数	14人	13人	11人	13人	12人	入賞数	2人	4人	3人	3人	2人	技能グランプリ(隔年開催)	選手数	18人	-	15人	-	-※2	入賞数	6人	-	3人	-	-※2	優秀技能者表彰	26人	21人	23人	22人
管理指標	11次目標	策定時	R4実績																																																																															
技能五輪全国大会入賞者数	15人以上	13人	15人																																																																															
若年者ものづくり競技大会入賞者数	6人	4人	4人																																																																															
優秀技能者表彰	30人以上	23人	18人																																																																															
区分/年度	H30	R元	R2	R3	R4																																																																													
技能五輪全国大会	選手数	33人	45人	31人	43人	35人																																																																												
	入賞数	13人	16人	13人	15人	15人																																																																												
若年者ものづくり競技大会	選手数	20人	17人	中止	12人	17人																																																																												
	入賞数	3人	3人	※1	4人	4人																																																																												
アビリンピック全国大会	選手数	14人	13人	11人	13人	12人																																																																												
	入賞数	2人	4人	3人	3人	2人																																																																												
技能グランプリ(隔年開催)	選手数	18人	-	15人	-	-※2																																																																												
	入賞数	6人	-	3人	-	-※2																																																																												
優秀技能者表彰	26人	21人	23人	22人	18人																																																																													
		＜課題＞ ・優秀技能者表彰について、全体数の底上げとともに、表彰実績のない職種における表彰対象者の掘り起こしを行う必要がある。																																																																																